

項目	説明	
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	免疫チェックポイント阻害薬導入時代における食道癌に対する根治的化学放射線治療の治療成績
	研究対象者	包括同意を頂いており、2020年1月～2024年12月の期間で当院で未治療の食道扁平上皮癌に対し根治的化学放射線療法が施行された患者
	研究目的	根治的化学放射線治療(dCRT)は食道扁平上皮癌(ESCC)に対する標準治療の一つである。しかしその治療成績は約20年以上前に計画された臨床試験に基づいたものであり、放射線治療装置の進歩や免疫チェックポイント阻害薬(ICI)の導入による治療成績の向上を反映した近年の治療成績は明らかではない。本研究では診療録を用いて、当院で2020年1月から2024年12月までの期間に未治療のESCCに対しdCRTが施行された症例を後方視的に解析する。
	研究方法	診療録を用いて、当院で2020年1月から2024年12月までの期間に未治療のESCCに対しdCRTが施行された症例を後方視的に解析する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号(識別コード)で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2026年3月16日～西暦 2027年3月31日
	利用又は提供 を開始する時期	<input checked="" type="checkbox"/> 総長が研究実施を許可した日 <input type="checkbox"/> 西暦 年 月 日頃(研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 試料:	<input type="checkbox"/> 血漿、 <input type="checkbox"/> 血清、 <input type="checkbox"/> 全血、 <input type="checkbox"/> 末梢血から抽出したDNA、 <input type="checkbox"/> 病理検体(具体的に記載: _____)、 <input type="checkbox"/> 尿、 <input type="checkbox"/> 糞便、 <input type="checkbox"/> 唾液、 <input type="checkbox"/> 胸水、 <input type="checkbox"/> 腹水、 <input type="checkbox"/> 脳脊髄液、 <input type="checkbox"/> 毛髪、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報:	<input checked="" type="checkbox"/> 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢、 <input type="checkbox"/> 生年月日、 <input checked="" type="checkbox"/> 性別、 <input checked="" type="checkbox"/> 既往歴、 <input checked="" type="checkbox"/> 併存疾患、 <input checked="" type="checkbox"/> 外来日・入院日・退院日、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査値、 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、 <input type="checkbox"/> ゲノムデータ、 <input checked="" type="checkbox"/> 看護記録、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
試料・情報 を利用する 者の範囲	当センター研究責任者	消化器内科消化管・石川俊太郎
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター・消化器内科消化管・石川俊太郎・045-520-2222 利用停止のお申し出は2026年03月23日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	